

鶴岡市地域コミュニティ推進計画（第3期） 基本理念・目指すコミュニティ像（案）について

1 基本方針見直しにかかる主な意見（10月21日委員会より）

- ・皆が地域にそれぞれ関心を持つことが大事である。主体的に各々が行動することで、コミュニティの活性化に繋がる。
- ・各コミュニティセンターでもホームページを作成し、デジタルで情報を伝えていく。
- ・鶴岡ファンをつくっていくと、鶴岡の良いところを広めてもらえる。
- ・災害に対しての不安をなくしたい。
- ・地域コミュニティでしっかりと下支えして教育の環境を充実させていきたい。
- ・結婚や子育て、子供の教育に対する不安を取り除きたい。
- ・若い世代、様々な年代の人達が参加できる組織づくり、仕組みづくりについて行政とも一緒に考えていく必要がある。
- ・世代を超えて話すことで新しい発想が出るため、世代間交流を大事にしたい。
- ・複数の地区で連携して地域コミュニティを運営していく。
- ・お祭りの時に鶴岡在住者以外が担い手として参加する関り方も大事にしていきたい。
- ・移住してきた多様な人達と一緒に地域コミュニティで関わっていくことも大事である。
- ・地域の活動に企業の役割があってもいい。
- ・企業にも地域コミュニティの意義、価値を共有し、働く世代も参加しやすいよう、ボランティア休暇のような制度を導入するなど理解を得ることが大事である。
- ・教育機関と連携し、学生に参画してもらう。
- ・学生が地域のために活動する意義やメリットを提示する。
- ・小中高生が地域のことを知り、力になってもらうことが大事である。
- ・鶴岡の土地は、文化、歴史が溢れているので、地域ごとの異なる文化、歴史を尊重し、後世に残していきたい。

2 検討の経過

- (1) 令和2年度より広域コミュニティ組織の長、単位自治組織の長を対象にふり返しシートによる調査を実施し、まちづくり活動の現状を評価、検証した。
- (2) 住民自治組織の代表者や関係団体、学識経験者等からなる「鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会」を開催し、意見を伺った。
令和5年度第2回委員会 令和6年3月19日
令和6年度第1回委員会 令和6年7月19日
第2回委員会 令和6年10月21日
- (3) 広域コミュニティや単位自治組織の役員等を対象にワークショップを実施し、地域コミュニティ推進計画や基本方針のあり方を探った。
第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画策定に係る意見交換会 令和6年9月13日

3 基本理念・目指すコミュニティ像(案)を作成するにあたり参考にした考え方

- ・一人ひとりに活躍の場がある
- ・誰もが参加しやすい
- ・話し合いの場を創出する
- ・市民がまちづくりの主角となる
- ・お互いを尊重する
- ・思いやりを持つ
- ・地域の活動等が発信され、必要な情報を選択したり、頑張っている人を応援したりできる
- ・あいさつを交わしあう
- ・みんなが力を合わせより良い地域環境を築く
- ・安全安心な暮らしができる
- ・心豊かな暮らしを大切にする
- ・未来に希望を持って暮らせる
- ・若者が定着する
- ・結婚や子育てをしやすい
- ・環境の保全を図る
- ・地域のことをわが事としてとらえる
- ・地域課題の解決に主体的に取り組む
- ・組織や運営を見直し、持続可能な活動を展開する
- ・小規模な単位自治組織のあり方を検討する
- ・地域内コミュニティ組織のほか、団体や学校、企業等様々な人々が連携し、地域課題に協働して取り組む
- ・地域外交流の推進により、地域を活性化する
- ・学校と地域が連携し、社会全体で子どもを育てる
- ・地域に愛着や誇りを持つ
- ・郷土愛を醸成する
- ・人材の活用と育成を図る
- ・地域の文化、伝統、資源を大切にする
- ・伝統文化の継承には日頃の関わり合いが必要である
- ・地域ごとの異なる文化や歴史を尊重する

4 基本理念・目指すコミュニティ像(案)

《基本理念》

一人ひとりが地域へ誇りや愛着を持ち つながりを育む協働のまち 鶴岡

《目指すコミュニティ像》

○お互いを尊重し、誰もが参加しやすい地域コミュニティ

○心豊かな暮らしを支え合う地域コミュニティ

○様々な連携・協働で地域課題を解決する、持続可能な地域コミュニティ

○伝統や文化、自然など地域の特色を大切にし、郷土愛を育む地域コミュニティ

市のコミュニティ施策について(令和 6 年度の取組み)

地域コミュニティの維持・活性化を推進していくため、「第 2 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画」に基づき、地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進めた。

(1) 地域コミュニティ活性化の推進

「第 2 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(R3～R7)」の着実な遂行のため、地域ビジョン策定支援や、地域課題解決に向けた住民主体の体制づくりを推進した。

①地域ビジョン策定及び実践支援

地域の現状を把握し、地域のあるべき姿(目標)を定め、具体的な取組み事項を計画する「地域ビジョン」策定を支援するとともに、策定済地区が地域ビジョンに掲げる目標を達成するために取り組むまちづくり活動を支援した。

○地域ビジョン策定済 17 組織

鶴岡:加茂地区、三瀬地区、小堅地区、由良地区、第六学区

藤島:藤島地区、渡前地区

羽黒:手向地区、泉地区、広瀬地区、羽黒第四地区

楡引:宝谷地区

朝日:朝日東部地区、朝日大泉地区

温海:越沢、福栄地区、宮名

(策定順。令和 6 年度策定は、渡前地区)

※朝日地域、温海地域においては、平成 23～25 年度過疎地域集落対策事業により集落ビジョンを策定(朝日地域 6 組織、温海地域 10 組織)。

○地域ビジョン策定中及び策定予定地区 6 組織

鶴岡:第二学区、第三学区、湯田川地区

藤島:東栄地区、長沼地区

朝日:朝日中央地区

②鶴岡地域まちづくり未来事業の実施

「地域まちづくり未来基金」の設置目的である「地域社会・コミュニティの振興及び均衡ある発展」を図るため、「人口減少に立ち向かう、真に地域振興に資する」事業を地域まちづくり未来事業として位置づけ実施。鶴岡地域では、広域コミュニティ組織が未来に向け取り組むまちづくり(プロジェクト)を支援し、住みよい、活力あふれる地域コミュニティの構築を推進した。

◇令和 6 年度採択件数…7 件 13,805 千円

➡資料 No.3 「鶴岡地域まちづくり未来事業実施状況について」

③ アドバイザー職員制度による地域づくり支援

地域ビジョンの策定や地域課題の解決、事業実施など、地域の要請に応じて職員をアドバイザーとして派遣し、地域の主体的な活動を後押ししている。

◇令和 6 年度アドバイザー職員派遣… 6 地区(11 名)

➡ 資料 No.4 「アドバイザー職員制度」

④ ワークショップ等の開催による地域づくり支援

地域課題解決等に向け、地域が主体的に行う取組みに対して、ファシリテーターや外部アドバイザー等を派遣し、地域の実情に応じた住民主体の地域づくりを推進した。

◇令和 6 年度地域づくりワークショップ支援事業… 1 地区

⑤ 生涯学習活動を通じた地域づくりの推進

広域コミュニティ組織へ「広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金」(櫛引・温海地域は単位自治組織に「公民館類似施設運営・活動費補助金」)を交付し、地域が主体的に行う生涯学習活動を支援している。

また、各地域に生涯学習推進員を配置し、広域コミュニティ組織の職員等と連携を図りながら、地域の状況に合わせた効果的な事業展開が図られるよう支援したほか、コミュニティセンター等を活動拠点として実施された生涯学習事業の概要をまとめた「生涯学習事業記録」を作成し、情報共有している。

⑥ 優良事例の共有

推進計画に記載の各種取組みについて、住民自治組織の取組み状況を確認するため、毎年「ふり返しシート」の作成をお願いしている。各住民自治組織から提出された令和 5 年度の取組みについて、調査報告書(概要版・詳細版)としてまとめ、住民自治組織に配布することで課題や取組み事例を共有した。

併せて、地域のコミュニティ活動の工夫や独自の取組みなどを紹介する広報紙「まち活通信」(vol.3, vol.4)を発行・配布し、優れた取組みの共有を行った。

➡ 資料 No.6 「まち活通信」

(2) 住民自治組織の活動・運営支援

住民自治組織に対し持続可能な体制整備を促すとともに、活動への支援、身近な地域課題解決に向けた取組みを支援した。

① 広域コミュニティ組織の育成・支援

「広域コミュニティ組織運営・地域づくり交付金」(対象は 33 の広域コミュニティ組織。鶴岡地域 21、藤島地域 5、羽黒地域 4、朝日地域 3)により、地域が主体的に行う生涯学習、福祉、防災、生活環境整備等の総合的な地域活動の他、地域の特色を活かした魅力ある地域づくりや地域課題の解決に向けた取組み等を支援した。

このほか、各種研修会や会議等において市からの情報を提供するなど組織の育成及び機能強化に取り組んだ。

② 単位自治組織の維持と負担軽減に向けた支援

463 の町内会等へ「住民自治組織総合交付金」を交付。各自治組織の特色を活かした交付金の活用を促進するとともに、小規模な町内会や条件不利地域に配慮した内容で交付している。

また、活動拠点の整備については、「公民館類似施設整備費補助金」による支援や各種補助制度等の情報を提供し、単位自治組織の維持、運営を支援している。

◇令和 6 年度公民館類似施設整備費補助金… 6 公民館

(3) 各種研修等の実施について

① 住民自治組織合同研修会「つるおかみらいフォーラム」(実施予定)

期 日 令和 7 年 3 月 7 日(金) 13:30～

会 場 市内 4 会場と自宅等からの受講を併用したハイブリット開催

対 象 鶴岡市内単位住民自治組織(町内会等)代表者、自治公民館関係者、広域コミュニティ組織関係者、市職員

内 容 ○市からのお知らせ…令和 5 年度「ふり返しシート」調査報告

○講演:町内会の運営や活動を昭和から令和へアップデート

講師:合同会社フォーティ R&C 地域活性化・まちづくりコンサルタント 水津陽子氏

「鶴岡地域まちづくり未来事業」実施状況

地域コミュニティの振興及び均衡ある発展を図るため、人口減少に立ち向かう、地域振興に資する事業を“地域まちづくり未来事業”として位置付け、鶴岡地域の広域コミュニティ組織が未来に向け取り組むまちづくり（プロジェクト）を支援し、住みよい活力あふれる地域コミュニティの構築を推進しています。

令和6年度採択事業 7件

1	団体名：加茂地区自治振興会 事業名：地域ビジョン実施事業「加茂の大判焼きで子供や若者が集うまちづくり」 交付決定額：342,969 円 事業概要：「住民が安全で安心に暮らせ、若者壮年世代が活躍できる楽しい加茂」、「県内外や、外国から来られる方が目で見て楽しめる、食べて楽しめる、体験して楽しめる、学んで楽しめる加茂」を目指す将来像として地域ビジョンに掲げ、これまで加茂古道に解説・案内看板を設置するなど、加茂地区の魅力の発信を図っている。今年度は「地域になじみがない、愛着がない＝加茂から出ていく」のサイクルを止めるため、「加茂で楽しいことをやる！」の第1弾として大判焼きを若者たちで作る。若者が地域に出るきっかけを作り、加茂地区内・外の子供や若者が加茂に集って楽しめる場所づくりをする。 ◆R1～R5 年度：マップ作成、看板設置、大黒舞継承事業（半纏整備、唄本見台、唄本整備）、日和山遊歩道整備、まち歩きガイド整備事業、加茂古道チラシ、防災マップ作成、街並み案内看板設置 ◆R6 年度：加茂地区独自の大判焼きを作り、イベント等で販売し、関係人口の増加を図る。
	まちあるきイベントで試食
2	団体名：三瀬地区自治会 事業名：三瀬地区地域ビジョン推進事業「三瀬イズム推進プロジェクト」 交付決定額：442,000 円 事業概要：「三瀬イズム 住むを楽しむコミュニティ」をキャッチフレーズにした三瀬地区地域ビジョンのうち、「三瀬ファンプロジェクト」「見守り・防災プロジェクト」に取り組み、住民の不安解消、地域特性の向上を目指す。 ◆R1～R5 年度：駅前環境整備、ビジョン住民周知、マイ防災カード整備、三瀬散歩コースの認定事業、見守りの仕組みづくり、ビジョン詳細版作成、地域再発見事業、空き家対策事業（プロジェクトチームづくり）、防災士の育成、「結ネット」を活用した災害時安否確認に向けた取組み、歴史資料の整理、「おらほのノート」自由帳製作 ◆R6 年度：防災研修会の実施、防災ハンドブックの作成、防災キャンプの実施、「おらほのノート」の販売をとおして地域資源のPR
	「コミュニティ×防災」研修会

3	団体名：第六学区コミュニティネットワーク 事業名：「住民自ら本当の豊かさを追求しみんなが暮らしやすい持続可能なまちづくり」② 交付決定額：525,000 円 事業概要：第六学区内において、特に高齢化率が高く、単身高齢者世帯や空き家が増えている現状等同じ課題を抱えている町内会を集約してモデル地区として設定し、困りごとを気軽に話し合える居場所づくり等課題解決に向けた取組みを展開していくことで、安全、安心に暮らせる地域を目指す。 ◆R2～R5 年度：住民ニーズの整理、活動内容の検討、組織の設立、拠点施設整備 居場所「はろ〜くらぶ」を活用した事業の実施、世代間交流事業の充実 ◆R6 年度：「はろ〜くらぶ」活用事業とSDGsとの関連付けたイベントの実施 子ども食堂開設準備、フードドライブ、フードパントリーの実施  交流居場所として整備された「はろ〜くらぶ」  夏祭りなどの季節イベント開催のほか、笹巻づくりなど多彩な事業が活発に行われている。
4	団体名：由良自治会 事業名：地域ビジョン実施事業「“ゆら” まるごとインフルエンサー」その3 交付決定額：4,000,000 円 事業概要：R4年度に完成した由良地域ビジョン『ゆら“未来予想図”』の実践計画として「情報発信PR」「SNS教室」「マップ・看板設置」「フリーマーケット」開催など掲げている。恵まれた地域資源をだれでも・いつでも・どこからでも情報発信・受信・交換・共有することができる、“ゆら” まるごと「インフルエンサー」をキャッチコピーに住民の皆が自分ごととしてまちづくりに参画し『ゆら“未来予想図”』の実現を目指す。 ◆R4～R5 年度：LINEよろず相談、集いの場と美味しい食の提供、QRコード付き案内板制作、環境美化準備、フリーマーケット事業、地域ビジョン「ゆら未来予想図」の住民周知 ◆R6 年度：SNS・LINEよろず相談、由良公式LINEによる災害情報提供、集いの場・美味しい食の提供、体調・安否確認ツールの調査、サインとQRコードの設置、カレンダーの製作、花いっぱい運動、ごみ拾い活動、フリーマーケット・ゆらマルシェ開催  「ゆらマルシェ」の開催

5	団体名：第三学区コミュニティ協議会 事業名：SUN楽区まちづくり未来事業 交付決定額：2,459,787円 事業概要：次世代の第三学区コミュニティ協議会や第三学区町内会を支える人材育成をするために、子育て世代を含めた賑わいづくりや多世代の交流づくりの各種事業を展開する。 それらの事業を企画・運営する中で、第三学区は、歴史遺産・教育財産・最新技術・人財等の宝庫であることに気づき、自分たちのまち第三学区への誇りを育み、将来の第三学区を支える人材を育てる。 ◆R5年度：スマホフォトイベント、フォトイベント補完プログラム（ドローンによる空撮）未来創造ミーティングの実施 ◆R6年度：・SUN楽区を巡る 「チーム対抗ウォークラリー大会」 ・SUN楽区で競う コミセン大ホールで各種目（軽スポーツや方言カルタなど）チーム対抗戦 ・SUN楽区に集う 「文化祭」に子どもが楽しめる体験スペースを設置 ・上記の取組みを企画検討段階から映像で記録し、動画の配信を行う。 ・事業計画策定ミーティング、地域ビジョン策定のための勉強会を実施  文化祭は企画の大幅見直しを行い、幅広い世代の多くの方から来場いただいた。致道館中高の吹奏楽部・音楽部の皆さんも演奏を披露。
6	団体名：小堅地区自治振興会 事業名：地域ビジョン実施事業「小堅発サスティナブル・リサイクルプロジェクト」 交付決定額：540,000円 事業概要：地域ビジョンに掲げる将来像「子ども・子育て世代が住みたくなる小堅地区」を目指し、多世代交流施設「こがたランド」の整備、充実を図る。活動に多くの住民を巻き込むことで地域との関わりへの意識の高揚を進め、小堅地区に暮らす理由を創出していく。地域外へもイベントPRする等、地域外への魅力の発信にもつなげる。 ◆R1～R4年度：シェアハウス整備、「未来創造部」の組織化、地域ビジョン策定、こがたランド整備・安全確保、イベント開催（DIYイベント、遠足の受け入れ、地区シニアサポーターによる「昔の遊び教室」の実施） ◆R6年度：こがたランドに「サスティナブルーム」を新設、DIYスペース増設、サスティナブルショップの開催、サーキュラーエコノミー「岩百合フリマ」の実施、「サトモリツーリズム」における体験型旅行プランを企画。  サスティナブルーム・DIYスペース増設中

7	団体名： 湯田川地区自治振興会
	事業名： 湯田川孟宗プロジェクト
	交付決定額： 5,495,000 円
	事業概要：地域の資源である竹林について「管理を委託したい人」「管理する人」「イベントに参加したい人」のプロジェクト会員を募り、みんなで環境の維持を図る。竹チップパーを導入し「野焼き処理」を少なくし環境を守るとともに、チップを肥料として活用しコミュニティビジネスにつなげていけないかの試みにチャレンジする。 全世代で、竹関連の作業・イベントは楽しいというイメージを持ってもらうため、多くの人が携われる行事を行っていく。 ◆R6年度：伐採した竹を竹チップパーでチップ化し、チップを土に混ぜることで畑の土壌改良を図る。親子向けに竹に関連したイベントを実施し、竹林や孟宗に親しんでもらう。



竹林間伐作業

【取組みの成果】

- 地域の担い手が活躍できる環境や体制が整い、担い手の確保・育成が図られた。
- 目指す姿の実現に向けた実践事業に取り掛かりやすい環境が整備された。
- 関係人口の増加につながった。
- 歴史文化の活用による郷土愛の醸成及び域外への本市の魅力発信に貢献した。
- 取組みに至っていない地区の機運の醸成が図られた。
- 住民のまちづくり意識が高まり、組織基盤強化、地域課題解決力の向上が図られた。

■制度概要

地域の問題解決に向けた住民主体の地域づくり活動を促進するため、地区の要請に応じて配置された市職員がアドバイス等の支援を行う

■支援地区での取組み（令和6年度／抜粋）

<第三学区>



第三学区・上郷地区において、
住民主体による地域活動
(ワークショップ、プロジェクト実施) の
運営支援を行っています

<上郷地区>



■配置状況（令和6年度は6地区へ11名配置）

	令和4年度／15地区	令和5年度／11地区	令和6年度／6地区
地域ビジョン策定 及び取組への助言等	第二学区／藤島、東栄、 長沼、渡前／手向、泉、 広瀬、羽黒第四	藤島、長沼、渡前／ 泉、広瀬、羽黒第四	長沼
鶴岡地域まちづくり未来 事業の取組への助言等	田川、湯野浜	田川、湯野浜	
その他、 地域課題解決の支援等	第三学区／ 丸岡、宝谷、馬渡	第三学区、上郷／ 手向	第三学区、田川、 上郷／手向／下山添

各地域の取組み状況について(令和6年度)

☆ 鶴岡地域の地域課題解決に向けた取組み ☆

第三学区

より幅広い世代の住民が関わるコミュニティづくりをテーマに、3年間に渡り住民ワークショップ「未来創造ミーティング」を実施。ここで得た発想を受け、「SUN 楽区まちづくり未来事業」を開始し、「巡る」「競う」「集う」をキーワードに、学区の地域性を活かし、賑わい創出や多世代交流を図る新たな事業に取り組んでいます。今年度、夏休み期間中に開催したウォークラリー「SUN 楽区 Free-Spirit-Rally」では、文化財や名所などを親子で巡ることで新たな地元の魅力発見につなげています。



今年の夏はSUN楽区が熱い！

さんがつく ふりー すびりっと らりー

"SUN 楽区 Free-Spirit Rally"

夏休みに親子で3学区を回ろう！
ポイント集めて豪華賞品も手に入れよう！

Rally期間: 7月19日～8月22日

- ①チェックポイントをカクニン！
- ②チェックポイントに行ったら写真を撮ろう！
(問題に正解するとさらにポイントがふえるよ！)
- ③エントリーシートを3コミに出すと参加賞ももらえるよ！
(エントリー受付期間8月19日～8月31日まで)

はじまるよ～
夏休みを
楽しく過ごそう！

チェックポイントの情報やルール、エントリーシートは
3コミのホームページで閲覧、ダウンロードが可能です。
裏面をご覧ください。

「SUN 楽区 Free-Spirit-Rally」の告知

上郷地区

地域を元気にするためのアイデア出しなどを行っていた「上郷を元気に！上郷みらいづくりワークショップ」から、子ども同士の遊び場、シニアの憩いの場づくりを目的に「GO！GO！かみごうプロジェクト」として3つのプロジェクトが始動しました。プロジェクトメンバーは、中学生からシニア世代までおり、特技や経験が活かせるようにDIY講座、マルシェ、eスポーツに分かれました。11月に開催した「第1回上郷マルシェ&eスポーツ大会」では、地域で楽しい企画があることを知ってもらうことができ、幅広い世代を巻き込んで、上郷の元気な未来への第一歩を踏み出しています。



eスポーツ大会の様子

加茂地区

加茂ランドデザイン検討推進委員会は、学校がなくなり、少子高齢化が進んでいた地域を住民で元気にしようと、鶴岡地域で初めて地域ビジョンを策定しました。このたび1期目の活動が終了し、令和6年から令和10年までの2期目の計画期間に入りました。自然、産業、環境、教育、歴史のチームに分かれ、「魅力発見！加茂にカモ～ん！！～加茂ビジョン～(更なる進航)」を新スローガンに掲げています。若者壮年世代に活躍する場を与え、地区の賑わい創出を願い「加茂の大判焼き」の開発・販売を行いました。



加茂コミセン文化祭での大判焼き製造の様子

令和 6 年度藤島地域各地区の取組み

藤島地区 大規模地震に備え、避難訓練！



11 月 17 日、大規模地震を想定した藤島地区防災訓練が、各町内会と藤島庁舎、藤島活動センター合同で、一斉に行われました。

訓練では、各家庭での初動訓練や、自主防災会の一時避難場所の開設・伝達・安否確認などを実施。この内、伝達訓練では、各町内会で屋外防災無線による避難の呼びかけも行われ、住民が真剣な面持ちで訓練に参加していました。

また指定避難所となる藤島活動センターと駅前町内会館では、それぞれ避難者カードへの記入体験や、段ボールベッドの組み立て訓練、防災トイレの展示も行われ、訓練参加総数は 911 人となりました。

《④段ボールベッドの組み立て訓練 ⑤寝心地を体感する参加者》

東栄地区 東栄芸術祭「あさひ博」

幅広い年齢層の団体個人の作品の展示を行いました。

初日には、玉コンと笹巻の振る舞い、2 日目にはグラウンドゴルフ大会を行い、両日とも世代間の交流もあり盛り上がった芸術祭でした。



八栄島地区 学社連携事業グラウンドゴルフ交流会



藤島小 6 年生と藤島小学区グラウンドゴルフ愛好者の交流会が 7 月 12 日(金)に長沼地区地域活動センターグラウンドで行われ、6 年生 1 名と愛好者 1 名で 1 チームを編成。

1 つのボールを交互に打ち合うルールで 16 ホールをラウンド。6 年生は愛好者からクラブの持ち方や打ち方、ルールなど教えてもらい、好プレー、珍プレーも見られ、楽しい有意義な時間を過ごすことができました。

長沼地区 更に充実 長沼秋まつり

活動センター体育館を主会場に晴天の中、長沼秋まつりを 2 日間に渡り開催しました。皆さんの素敵作品や農産物の展示を行いました。

中でも今年度は長沼出身の陶人形作家である今田和子さんから作品を展示して頂きました。また、イベントでは新企画として半紙一文字コンテストと長沼 Nintendo チャンピオンシップを開催し、来場者の皆様から楽しんでいただきました。



渡前地区 (新企画)『こども夏祭り』開催

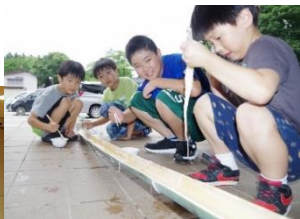


少子化に伴い、町内会単位での開催が難しくなっている状況を踏まえ、地区として子ども達が楽しめる機会を提供しようと企画された標記事業。各公署や青少年育成協議会役員、女性ボランティア等のご協力の下、8 月 18 日(日)に開催。働く車(パトカー、消防自動車・救急車、自衛隊ジープ)の展示や写真撮影に始まり、その後、金魚すくい・射的・輪投げ等のゲームや、かき氷・チョコバナナ・あん玉等を提供。当日は、中学生以下の子供達やその家族 100 人から参加していただき、新たな交流の場として楽しんでいただきました。

羽黒地域の取組み(令和6年度)

★手向地区の取組み★

夏休み体験教室 7月31日



福祉について学び、世代間交流を通して思いやりの心を育む体験教室を開催しました。小学生と地域の方々がチームを作りポッチャに挑戦し、福祉についての話を聞き、最後に流しうめんを体験しました。流しうめんでは竹を伝い流れてくるうめんを、最初はうまくつかめなかった子どもたちもすぐにコツを覚え、うれしそうに達成感を味わって食べていました。子どもも大人も大いに盛り上がり、子どもたちにとっては貴重な体験となりました。

★泉地区の取組み★

世代間交流事業検討 5月～



地域ビジョンのテーマである「交流できる場所と機会づくり」の取組みの1つとして、学区運動会に代わる泉地区全住民を対象とした交流イベント「世代間交流事業」の開催に向けた話し合いを開始しました。人口減少や世帯の少人数化が進行し、地域のつながりの希薄化が課題となっています。今後、防災や防犯・子どもや高齢者の見守りなど地域で助け合い・支え合いの力が必要であると考え、レクリエーションや軽スポーツを通して、地区住民同士がつながり・交流できるきっかけを作りたいと考えました。来年度の開催に向け、今年度話し合いを重ねていきます。

★広瀬地区の取組み★

ひろせフェア 11月9・10日



「広瀬地区文化祭」の名称を今年度「ひろせフェア」に改名し、内容を少し変更し開催しました。小学生、保育園児、サークル、一般の方の作品展示のほか、新たにキッチンカーやeスポーツ、ALSOKお仕事体験、フードドライブ(地域貢献)や地元食材を利用した芋煮、つや姫新米おにぎりをお母さんたちに作ってもらいふるまいました。運営にも地区の高校生や20代の若者、ハッピーの会の方々がボランティアとして携わり、活気あふれた「ひろせフェア」になりました。後日、フードドライブで集まった食品類は羽黒福祉センターに寄贈しました。

★羽黒第四地区の取組み★

羽黒第四地区夏まつり 8月4日



第四地区の活性化を図り世代や地域をつなぐ行事として、毎年「羽黒第四地区夏まつり」を開催しています。各集落から選任された夏まつり協力員の協力のもと企画と準備を進め、売店の出店やステージアトラクションを行い、会場は大勢の住民の方で賑わいました。また、花火打ち上げの協賛金を募り、祭りのフィナーレにはそれぞれの願いや思いを込めたメッセージとともにたくさんの花火が打ち上げられ、夏の夜空を彩りました。

櫛引地域の取組み(令和6年度)

◆櫛引地域南部自主防災会の取組み◆

櫛引南小学校を指定避難所とする5地区で構成された南部自主防災会では、地区防災計画のブラッシュアップと、櫛引南小学校を会場に避難所開設訓練（実技研修）を開催しました。訓練は、事前に学校や防災資機材等を確認し計画を見直した上で実施。計画では班ごとに役割分担をしていますが、災害発生時に班員が参集できないことが想定されることから、訓練では、参加者全員がそれぞれの班の役割を学べる内容としました。

また、非常食（アルファ化米）の試食も行ったところから、各地区や個人でとしても、備蓄に取り組みたいとの感想があり、防災意識向上の一助となったと考えます。



◆令和6年度櫛引地域コミュニティ検討ワークショップ◆



昨年度に引き続き一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事 廣瀬隆人氏を講師にお招きし、櫛引地域コミュニティ検討ワークショップを、6月と10月に開催。それぞれ50名を超える参加がありました。1回目は地域課題を共有し、2回目では課題解決のヒントを考え学ぶ内容。集落史の写真から当時の様子を紐解き、学びを核に捉えつつも楽しみを取り入れ地域のつながり続けてきたこと。ちょっと宅配の人を驚かさうという「遊び心」を持ったかかしづくりが全国的に注目され、見物に訪れるようになった山間部にある尾花沢市西原地区の「かかしの郷宣言」を解説。そして先ず運営にあたる人が楽しむことが大事で、そこから徐々に人の和が広がっていくような方向にしないと負担感ばかりで続けられないと廣瀬先生からとアドバイスをいただきました。

ワークショップ終了後、地域づくりの仕掛けを考えていく有志を募ったと

ころ、5名の方から手を挙げていただき、今後の活動を検討しているところです。



朝日地域の各地区の取組み状況（令和6年度）

▶朝日中央地区

「地域共創プロジェクト スマホ教室」



デジタル人材を地域で育成し、スマホ操作の学びを提供する仕組みの構築を目的とした地域共創プロジェクトの取組み2年目となります。昨年度はデジタル人材の育成を中心に、今年度は研修を修了した地域住民や中学生を「スマホセンセイ」として、積極的に要望のあった自治会や地域の集まりに出張してスマホ教室を開催しました。地域住民や若者世代を“センセイ”とすることで、気軽に学び合える環境が整いつつあり、また、若い世代が事業に関わることでの世代間交流も図られています。今後は地域課題解決に向けた情報発信の強化にもつなげていきます。

▶朝日南部地区

「かよ飴づくり」

令和6年12月16日・17日の2日間、山の恵みを守り、次世代につないでいくプロジェクト第2弾として、地元の名人を講師に迎え、昔ながらの「かよ飴づくり」を開催しました。

初日は早朝から事務局がもち米を炊き、参加者は理科の実験しながらジースターゼを混ぜたもち米の変化をワクワクして待ち、6時間の保温後に再集合してもち米をこす作業。翌日再々集合し、煮詰める作業を行いました。アクを取り、かに泡を見つめながら、待ち時間は笑いの絶えないおしゃべりタイムとなり、終始、かよ飴の懐かしく優しい甘い香りに包まれながら至福のひと時を過ごしました。



▶朝日東部地区

「六十里越街道トレッキング」



大網地区『地域デザイン』に掲げている大網の魅力を知り、発信し、体感できる態勢を整え、交流人口の増加を図る取組みとして、令和6年6月29日と10月19日の2回シリーズで「六十里越街道トレッキング」を実施しました。

街道の保全活動に取り組んでいるアルゴディア研究会さんにガイドのご協力をいただき、地域内外からの参加者が、大網地区の街道コースとなる湯殿山総本寺大日坊から七ツ滝までをじっくり歩いて、地域の歴史を学び、深め、大網の魅力を堪能しました。

温海地域の各地区の取組み状況（令和6年度）

●温海第1地区自治会



温海第1地区自治会では、山五十川公民館を会場に「クリスマス合同勉強会」を実施しました。参加したのは温海地域内の小学2年生から中学3年生までの11名。元教員の地域の方を講師に冬休みの宿題に取り組みました。長時間でしたが、おやつタイムをはさみ、励ましあう姿も見られました。少子化やコロナ禍により、希薄となった地域と子どもがつながりを深める貴重な機会となりました。

●温海第2地区自治会



温海第2地区自治会では、11月2日（土）温海中学校体育館と友愛の森広場を会場に、地区内の住民を対象とした、ドッジビー、ポッチャ、グラウンド・ゴルフの3種目でレクリエーション大会を開催しました。5年ぶりの開催であることに加え、従来の地区運動会に代わる大会の初年度でしたが、約100名が参加し、交流を深めました。



●温海第3地区自治会



温海第3地区自治会では、令和5年度末に解散した福栄地域協議会「福の里」で実施していた、有償除雪ボランティア事業を引き継ぎ、温海第3地区自治会「福の里除雪部会」として再出発しました。

12月19日（木）に第1回除雪部会を開催し、今年度の事業実施方法を確認しました。新たに登録ボランティア2名を加え、温海第3地区内集落の高齢者世帯等で住宅周辺の除排雪が困難な世帯に対し、有償ボランティアによる除排雪作業を行います。

●温海第4地区自治会



温海第4地区自治会では、6月2日（日）、鼠ヶ関小学校を会場に温海第4地区市民大運動会を開催しました。令和2年度からコロナ禍の影響等で中止していましたが、今回5年ぶりに開催に至りました。天候により最初の小学生徒競走のみグラウンドで行い、

その後の競技は体育館内で行いました。小学生徒競走のほか、綱引き、玉入れ、貯蓄リレーなど全10種目が行われました。大人も子どもも皆楽しんで競技に取り組み、交流が深まりました。



鶴岡市には、町内会や自治会など 463 の単位自治組織と、33 の広域コミュニティ組織(コミュニティ振興会、自治振興会等)があり、地域のまちづくりの活動主体として取り組んでいます。

この「まち活通信」では、地域のコミュニティで取り

櫛引|地域

單位自治組織

楽しいをつなぐの
一助に

下山添地区自治会 区長 蓮池 昇



下山添地区自治会は、旧鶴岡市と接しており、昭和60年から進められた住宅造成事業もあって、櫛引地域で最も世帯数や人口が多い集落(地区)です。

造成当初、元村と団地の交流は、地区の夏祭りでの年1回程度の交流でしたが、団地造成30周年を記念し、レクリエーション大会や芋煮会を行い、多くの方から参加頂きました。しかし世帯の代替わりやコロナの影響もあり、改めて交流や親睦の方法について、現在模索しているところです。一方で、子どものいる子育て世代では、育成会などの活動を通じて、交流が図られています。

郷土に愛着を

地区では、育成会と意見交換を持ち、小学生の頃から郷土に対する愛着心を持つように取り組みたいと、神社の由来など地区の史跡や歴史をウォークラリー形式で学んだり、地区のお祭りで子ども神輿や相撲大会を行ったりしています。

前者は、内容の関係から毎年行うのは難しいですが、後者は天候に左右されることはあっても、毎年、実施しています。地区内を二手に分かれて回る子ども神輿は、大人も大勢集まり、おひねりを渡す人もいて、大変喜ばれています。また、相撲大会は、地区内の相撲愛好会の方のご尽力もあり、横綱柏戸出身の小学校でも相撲大会がなくなる中で、地区内外の児童からの参加があり継続されていることは、誇れるのではないのでしょうか。

組まれている活動の工夫や独自の取組みを紹介しております。

今回は、郷土愛の育成と防災に対する取組み、コミュニティ機能の再構築の取組み、心が通い合う町内会づくり、地域資源を活かした組織づくりについて紹介します。

安否確認と避難行動を具体的に考える

広域コミュニティ組織
がない櫛引地域でも、近年
の激甚化している自然災



害から、避難所を開設しなければならない事態も起こりうるとの考えから、小学校区単位(避難所単位)での地区防災計画作成を令和 4 年度から取り組んでいます。この広域の地区防災計画と整合性を図った防災計画を策定するため、市アドバイザー職員※1 から支援いただきました。

アドバイザー職員からは、迅速な防災活動につなげるために、住民の安否情報を庁舎へ連絡して欲しいとの話がありました。隣組ごと区域に近い広場などの一時避難場所では、安否確認を行い、市で指定された一次避難場所では、地区の災害対策本部として情報収集にあたるよう検討しました。防災計画は作って終わりではなく、防災意識を保っていくために定期的な見直しも必要だと思いますので、引き続きより実用性のある計画となるよう検討していくこととしています。

次世代へつなぐ

今後とも地域住民のつながりを保ちながら、小さい頃
から子ども達に地区事
業へ参加してもらい、楽
しいと思う記憶が残れ
ば、地域に残る一助にな
るのではないかと取り
組んでいるところです。



地区文化祭で紙飛行機やホバークラフトの作り方を学ぶ

※1 地域の課題解決に向けた住民主体の地域づくり活動を推進するため、地区の要請に応じて配置された市職員が情報提供や助言等の支援を行う。

笑顔でずっと大泉

やれるかやれないか。やりたいの一念から

朝日南部地区自治振興会 事務局長
山口 弘美



朝日南部地区自治振興会は、朝日連峰の懷に抱かれた鶴岡市の最南端に位置するコミュニティです。令和6年3月に「大泉地域ビジョン」が策定されました。平成30年に下田沢自治会で開催した地域の10年後について語り合うワークショップ「おらほのしょ、ろんろんでゆう（活発に話し合うの意）」を皮切りに、実に6年の歳月を要しました。人口が減少しても住み続けられる地域づくりを目指した人口シミュレーションの実施、ワークショップの開催や策定委員会の立ち上げにより協議を重ね、ようやく策定に至ったものです。地域の現状をつまびらかにし、人口を数値化することによって、地域課題をより“自分事”とする良い機会になりました。

まずはやってみることに意義がある

地域ビジョンでは、「笑顔でずっと大泉」をテーマに掲げ、大きく5つの取組みごとに具体的な事業計画を立てました。

今年度は手始めに「コミュニティ機能の再構築」の取組みの中で、従来集落ごとに開催していた夏まつりの一本化に着手することにしました。楽しいことから始めたい。単純な発想ではありますが、果たして人は来るのだろうか…不安を抱えながらも、「まずはやってみることに意義がある」と励まされ、開催に向けて動き出しました。

何から何までが初めて。規模感、各ブースの設定など、祭りそのもののイメージが全くできない。テントは何張り必要か、焼き鳥は一体何本準備すればいいのか…。手探り状態が続く中、5月初旬に役員を中心とした打合せを始め、実働部隊となる実行委員を含めた拡大会議を何度も重ねて、計画を詰めていきました。

資金繰りも難航しました。予算立てについては、当初は自治会からの負担金を想定していましたが、小規模集落からは負担が厳しいとの声上がり、協賛企業を募集する運びとなりました。その結果、11社

から協賛をいただくことができました。

心躍ったプレ会場設営

開催の1週間前にはプレ会場設営を行い、やぐ

らを組み立て音響を設置し、提灯を吊り下げて点灯確認をしました。長らく各集落の倉庫の奥に眠っていた提灯が、久しぶりに日の目を見ることになりました。朝日音頭が耳に流れ、提灯の光が目に入る。五感が刺激され、心躍りました。わたあめやかき氷のブースも初めての経験であったため、参加者主体のセルフコーナーとし、スタッフ自らが負担感なく楽しめるような環境づくりにも努めました。

祭りは地域を活性化する

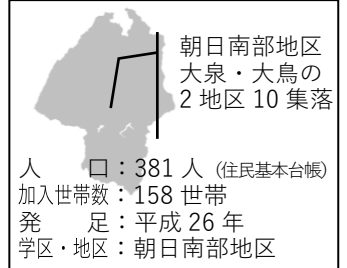
大泉地区の人口は7月末現在で329人です。8月10日開催の夏まつりに向けて、200人を想定して準備をしましたが、蓋を開ければ予想を上回る250人の来場者!!こんなに大勢の人を見たのは本当に久しぶりでした。盆踊りには100人以上の踊り手が参加し、3重もの人の輪には圧巻でした。協賛企業のおかげで、夏まつりの最後を飾った大抽選会也大いに盛り上がりました。コミセンだより第110号「台風の進路しんぺだ」（毎号タイトルに住民の声を起用）では、「人！人！人の輪！」として報告しました。人が繋がり、人の輪ができる。「祭りは地域を活性化する」まさにそう実感しました。



賑やかさを一層引き立てた盆踊り

「今日（来て）よかった」を目指して

さて、夏まつりの次ですが、地域課題解決と並行して中山間地域の良さを活かす事業提供を計画中です。地域の皆さんの24時間のうちの数時間をコミセン事業に参加していただき、「今日よかった」を感じてもらうことこそが成功のバロメーターだと考えています。目下試行錯誤中ですが。



つながりが消えない 町内会を目指して

砂田町町内会 会長 中村 健一



砂田町は、鶴岡市の北部に位置しており、西に旧国道7号線、東に大西町、北にみどり町、南に淀川町に囲まれた区域で大字新斎部字砂田一部を中心に、大字布目字東通一部が統合した町です。

昭和51年4月に発足し、当初の世帯数は115世帯でした。朝暘第6小学校の創立と同時に、子供育成会、一中会、婦人会、老人クラブ、安全協会支部などの団体も誕生し、公民館が建設される昭和61年7月までは、南岳寺を借用して活動していました。

なり手不足と個人負担軽減のための規約改正

やる気がある人ほど町内会役員になることを重荷に感じる傾向があることから、なり手不足と個人の負担を軽減するために、4年前に町内会規約を改正し、役員の任期を2年、最長でも6年としました。また、役員改選時には声かけを行い、部長、副部長に加えてサポーターを選出してもらい、夏祭りなどの町内会行事に協力してもらっています。また、役員選考会に女性を起用し、女性の目線で女性役員を選んでもらい、徐々に役員を担うことへの抵抗感を減くするように努めました。この仕組みを設けたことで女性役員の割合が増えてきました。

地域イベントを通じてのつながりを大切に

地域全体で協力し、様々なイベントを通じて住民のつながりを深めています。夏祭りは、役員会、隣組長で企画し行っていましたが、保護者世代である育成会、中学校会、中学校会OBOGも会議に参加してもらっています。中学校会を卒業すると一度切れてしまう親同士のつながりも、イベントを通じてつながるようになりました。保護者世代の「やらされる感」を払拭するために企画提案の場を設け、提案したことが採用してもらえると期待感が積極的な参加につながってきています。子どもが楽しめる夏祭りの催事の1つとしてアームレスリング大会を企画提案してもらい、当日は子ども達の奮闘する姿を見て会場が盛り上がりました。また、夏祭りの役割分担

では食券と商品の引き換え、神輿運行中の交通整理、盆踊り指導などを幅広い世代に振り分けたことで住民同士がつながる機会となりました。

砂田町町内会	
人	口：910人（住民基本台帳）
加入世帯数	320世帯
発足	昭和51年
学区・地区	鶴岡地域第6学区



夏祭りイベントのアームレスリング大会

さらに、「野菜運動会」の名を持つ大運動会も地域イベントの一環として行っています。この運動会は地域住民が一緒に楽しむことを目的とし、子どもから大人まで幅広い世代が参加できる種目が用意されています。参加者は運動会の1種目に参加するだけで鶴岡市指定のもえるごみ袋いっぱいじゃがいも、人参、白菜などが入った参加賞がもらえます。運動会終了後には芋煮会を開催し、参加者同士が交流を深める場となっています。

子育て世代への支援

西部児童館の子育て支援情報は第6学区コミュニティ防災センターにポスター掲示され、町内会長に送付されるだけでしたが、小学生以下の子どもがいる家庭を訪問して、希望者に届けるようにしました。情報提供の仕方を見直したことで、つながりができ、ちょっとした相談や意見交換ができるようになりました。子育て世代やその親世代に対して、また、転入してきた方には最初の段階で、砂田町が住みやすい環境であるということを伝え、地域に対する期待を高めることができるように努めています。

今後も、全世代とキャッチボールを重ね、地域全体でつながり続けながら、町内会活動を活発に進めていきたいと思っています。

祖先に感謝し 未来へつなぐ

細谷集落 区長 庄司 秀郎



細谷集落は羽黒地域の西に位置し、鶴岡の中心市街地にも近いことから各方面で便利のいいところです。稲作を生業としてきた地域で、34世帯の小規模の集落ですが、一人暮らし世帯や空き家なども増え、多くの問題を抱えながら維持しています。

「チーム細谷」と「細谷だだちゃ」

集落では、25年位前から土地改良区の事業の一環で農地・水の環境保全事業に取り組み、「チーム細谷」が発足しました。地域人、他地域で生活をしながら当地域で農業をしている人が構成員となっている集落の1団体です。活動には集落の各団体もメンバーとして加わっており、いわば集落全員が構成員となって運営しています。

鶴岡市内各所に特徴的な在来野菜があることを耳にします。白山だだちゃ、民田なす、温海かぶ、藤沢かぶなど、食の宝庫に恥じない名品ばかりです。実はわが集落にも、「細谷だだちゃ」という枝豆が存在しています。年配の方に伺うとずいぶん前からこの家でも植えていたそうです。それが白山だだちゃのように持続的に発展しなかったのは、稲作に依存していたからではないかと思われます。かといって種子がまったくなくなったわけでもなく、コツコツ作り続けていた家庭もあり、種子をわけてもらい作付けすることが可能となりました。小面積ですが植えて、管理して、収穫し、試食することができました。食べての感想は「うん。うまい。白山だだちゃにも負けない。」と高い評価でした。味は申し分ない。ただ課題はたくさんありました。発芽率がかなり悪く3割くらいで、種子を多めにキープしないと持続できない。出荷販売するまでに時間を要するなど。「チーム細谷」が主となり生産活動を行い、ここ4年位からようやく販売までこぎつけ、苦労が報われたような気がします。

広瀬小学校の 子ども達が体験

今年は広瀬小学校の3年生が訪れ、収穫を体験し、取った枝豆をみんなで食べました。子ども達が羽黒にも在来野菜があることを知り、受け継がれていることを学ぶ良い機会になったと思っています。



「細谷だだちゃ」の苗植体験

この「細谷だだちゃ」を通じた子ども達との交流が続き、地域に根づく体験になればと願っています。

農業を通じた地域づくり

実は「細谷だだちゃ」が注目されたのは、山大農学部江頭先生の目に留まったからでした。私はじめ、地元の多くの人はこのことを知らず、外部から注目されてようやく知ったという次第です。

「チーム細谷」として畑を維持し販売まで作業を行う、個人で栽培したい人は集落に負担にならないようにするなど、集落を基本に考えて続けていければいいのではないかと思います。農業人口がどんどん減り、若い世代が土に触れることもなくパソコンやスマホに頼ることは、さみしい現実だと思うのです。

この自然豊かな土地に生まれ、祖先からの伝統を受け継ぎ、さらに後世へとつなげることが今生きている私たちの使命でもあります。しかし、そのまま受け継ぐことが無理なこともあります。少子高齢化、農業の担い手不足と課題は多くありますが、これからもここ細谷で生活し、何かを求め得ようとする人達に、少なからず住みやすい集落でいられるよう手助けをしていこうと思います。

人口：174人（住民基本台帳）
加入世帯数：34世帯
発足：昭和30年
学区・地区：羽黒地域広瀬地区

編集・発行／ 鶴岡市市民部コミュニティ推進課

〒997-8601 鶴岡市馬場町9-25

TEL：0235-35-1203

E-Mail：community@city.tsuruoka.yamagata.jp

藤島庁舎総務企画課 TEL 0235-64-2111
羽黒庁舎総務企画課 TEL 0235-62-2111
櫛引庁舎総務企画課 TEL 0235-57-2111
朝日庁舎総務企画課 TEL 0235-53-2113
温海庁舎総務企画課 TEL 0235-43-2111



まち活掲示板